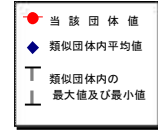


(12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

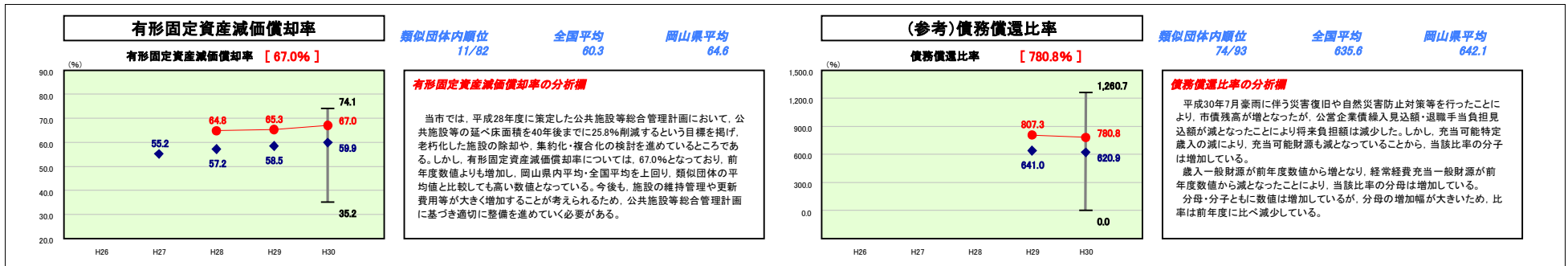
平成30年度

岡山県笠岡市

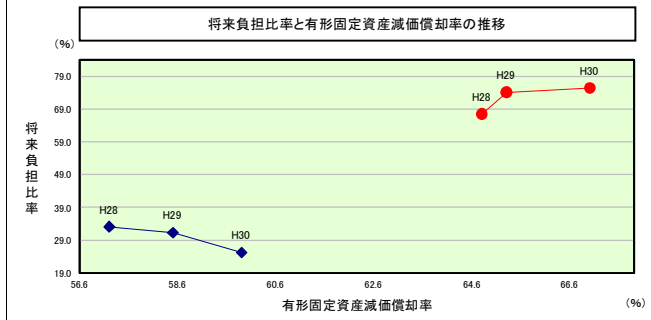
人口	48,712	人(H31.1.1現在)	実質赤字比率	-	%	
うち日本人	48,244	人(H31.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%	
面積	136.24	km ²	実質公債費比率	6.7	%	
歳入総額	26,468,309	千円	将来負担比率	75.5	%	
歳出総額	25,713,959	千円	市町村類型	H26 II-1	H27 II-2	H28 II-2
実質収支	632,789	千円	(年度毎)	H29 II-2	H30 II-2	
標準財政規模	13,078,888	千円				
地方債現在高	25,143,653	千円				



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成30年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※ 平成31年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。



将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

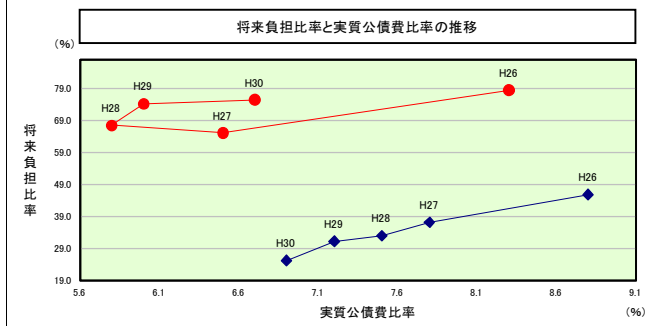


分析欄
 将来負担比率、有形固定資産減価償却率ともに、類似団体内平均値を上回っている。既存施設の老朽化が進んでいることから、老朽化施設に対し改修・修繕を行うか、除却・集約化・複合化を行うか、公共施設等総合管理計画に基づき、また、必要に応じて個別施設計画を策定し、対応していかなければならない。

(参考)

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率			67.5	74.2	75.5
	有形固定資産減価償却率			64.8	65.3	67.0
類似団体内平均値	将来負担比率			33.1	31.3	25.3
	有形固定資産減価償却率			57.2	58.5	59.9

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



分析欄
 将来負担比率については、大規模なハード事業が続くため、市債残高が増となり、80%を超えて推移する見込みである。将来負担の大幅な増を招かないよう借入金の一括償還や事業の見直し等を図っていく必要がある。
 実質公債費比率については、前年度に対し0.7ポイント上昇した。平成30年度以降、比率は上昇傾向となり、当市の目標値である6.5%を引き続き超えて推移する見込みである。平成30年7月豪雨による災害復旧や防災減災事業等の大規模ハード事業による影響が大きく、比率が上昇しないよう債務の縮減等健全化の取組を引き続き継続していく必要がある。

(参考)

		H26	H27	H28	H29	H30
当該団体値	将来負担比率	78.5	65.2	67.5	74.2	75.5
	実質公債費比率	8.3	6.5	5.8	6.0	6.7
類似団体内平均値	将来負担比率	45.9	37.3	33.1	31.3	25.3
	実質公債費比率	8.8	7.8	7.5	7.2	6.9